

町立西和賀さわうち病院の臨床指数

【本公表の目的】

病院の各種臨床指数を公表することにより、職員間で病院の現状と問題点を共有し、改善活動につなげる。さらに地域住民や町行政の関係者にも病院の現状と問題点を知ってもらうことにより、住民参加、オール西和賀体制、すなわち、かつて昭和30年代に旧沢内村で深澤晟雄村長が提唱した『一体態勢』の構築を目指したい。

1. 医事関連

1) 入院患者統計

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
新入院患者数	204	337	425	418
新退院患者数	210	326	419	418
入院延べ患者数	4,574	6,106	9,538	9,498
在院延べ患者数	4,784	6,432	9,957	9,913
1日平均入院患者数	12.4	16.7	26.1	26.0
1日平均在院患者数	12.9	17.6	27.2	27.2
病床利用率(%)	31.3	41.8	65.2	64.9
病床稼働率(%)	32.8	44.8	68.0	67.7
平均在院日数(日) (除外前)	22.1	18.4	22.6	22.7

解説：新入院患者数は着実に増加してきたが、平成28年度は伸びが止り、新たなマーケティングが必要と考えている。

2) 入院患者の平均年齢

年度	入院患者総数	男	女	平均年齢
平成25年度	204	101	103	79.1歳
平成26年度	337	163	174	79.6歳
平成27年度	425	195	230	80.5歳
平成28年度	418	186	232	80.7歳

解説：入院患者の年齢の上昇はほぼピークを迎えたと考えられる。

3) 入院統計

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
自宅	148	222	235	259
医院	15	25	55	38
病院	18	41	61	51
施設	23	50	74	70
合計	204	338	425	418

解説：入院は、町内の医院や施設からの入院が若干減り、自宅からの入院が増える傾向があり、在宅の介護力の低下の反映とも考えられる。

4) 町外からの入院数

平成26年度	平成27年度	平成28年度
4	10	18

解説：町外からの患者は少しずつ増加している。今後も町外からの回復期、維持期の患者を積極的に受けていきたい。

5) 退院統計

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
自宅	147	198	229	260
医院（町内）	1	18	26	25
病院	17	21	46	35
施設	14	34	78	61
死亡	18	38	40	37
合計	207	328	419	418

解説：入院治療後は原則的に紹介先の医院、施設に戻っている。急性期病院との連携も増加傾向にある。

6) 外来患者統計

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
内科	8,830	9,455	9,682
外科	7,059	7,068	6,457
眼科	1,343	1,354	1,318
小児科	185	262	222
訪問	143	103	61
施設（ふなの園）	767	684	714
神経内科			237
皮膚科	575	717	
耳鼻咽喉科	154	338	367
泌尿器科	122	344	423
整形外科	136	472	600
腎臓内科			47
循環器内科		40	125
透析	2,270	2,514	2,748
健診・特定健診・人間ドック	427	429	400
歯科	7,312	7,291	7,396
認知症外来（再掲）	22	446	486
リハビリ（再掲）	2,747	2,342	1,353
合計	29,323	31,071	30,797

解説：外来患者数は、町内の医療機関との連携を重視して、緩徐な増加に留まっている。従来から住民の要望が寄せられた専門外来の開設、維持には力をいれ、医療の完結性の向上を目指している。

7) 診療単価

(単位：円)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
入院	24,778	21,447	23,247	23,199
外来	8,869	9,307	9,632	9,469
歯科	5,771	5,732	5,719	5,784

解説：医療費抑制の流れの中で、診療単価の伸びは抑えられている。

8) 訪問診療、訪問看護

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
介護保険	訪問看護	590	137	218
	居宅療養管理指導	97	54	46
医療保健	訪問看護	3	12	6
	訪問診療	97	56	51

解説：平成26年度から、入院患者の増加を病院運営の柱とした。そのため、訪問診療、訪問看護の例数は大きく減少した。今後は医療ニーズの高い症例を中心に、訪問診療、訪問看護を施行して行く所存である。

9) 夜間診療

平成27年度	35
平成28年度	36

解説：夜間診療は住民の要望を受けて、平成27年1月から開始した（月1回・第2火曜日）症例数の増加傾向がなく、周知活動が必要である。

10) 死亡統計

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
診断書	54	40	47	41	44	45	48
検案書	3	10	3	6	8	7	0
計	57	50	50	47	52	52	48

解説：西和賀町は、高齢化率は上昇しているが、高齢患者数は既に減少傾向があり、それを反映して、死亡者数はプラトーになっている。

11) 手術数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	3	5	7
病棟	2	10	18
合計	5	15	25

解説：当院で可能な小手術を積極的に施行している。

12) 内視鏡数

年度	上部内視鏡	胃ろう	下部内視鏡	ポリープ切除
平成25年	165	5	42	0
平成26年	174	10	43	0
平成27年	165	11	61	1
平成28年	174	7	98	9

解説：山下晋平医師の活躍により、特に下部消化管内視鏡検査が増加した。ポリープ切除にも新たに取組みました。

13) 査定

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 4 月-12 月
入院	請求点数	12,208,282	19,360,036	15,881,855
	査定点数	21,734	37,234	30,034
	査定率	0.18%	0.19%	0.19%
外来	請求点数	19,568,725	20,252,317	16,265,936
	査定点数	41,476	57,390	23,823
	査定率	0.21%	0.28%	0.15%
合計	請求点数	31,777,007	39,612,353	32,147,791
	査定点数	63,210	94,624	53,857
	査定点数率	0.20%	0.24%	0.17%

解説：病院を挙げて査定減に取り組んでおり、まだ十分ではないが、成果が上がりつつある。

14) 減耗

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
内服	438,027	333,952	85,024	154,621
注射	17,243	27,851	105,364	161,826
材料	43,565	127,890	12,000	144
合計	498,835	489,693	202,388	316,591

解説：診療単価の伸びが期待できない現状では、減耗削減が大きな課題である。内服薬はかなり改善がみられた。注射薬の対策が課題である。材料費の減耗削減は、SPD 導入の効果と評価される。

2. 救急

1) さわうち病院の救急車受け入れ状況

年度	他院搬送	入院	死亡	帰宅	合計
平成 25 年	3	43	8	16	70
平成 26 年	15	68	7	23	113
平成 27 年	7	71	9	36	123
平成 28 年	15	73	4	62	154

解説：救急車の受け入れはここ 3 年で 2 倍に増加した。

2) 西和賀消防の活動状況とさわうち病院の救急車受け入れ状況

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
西和賀消防救急車出動件数 (a)	294	302	316	322
西和賀消防救急車搬送件数 (b)	269	280	289	297
西和賀消防救急車搬送人数 (c)	280	287	300	301
さわうち病院搬送件数 (d)	67	104	111	144
カバー率 (d/b)	24.9%	37.1%	38.4%	48.4%
さわうち病院搬送人数 (e)	69	111	115	144
カバー率 (e/c)	24.6%	38.7%	38.3%	47.8%
不搬送件数 (f)	25	22	9	25
不搬送人数 (g)	25	23	11	25
救急車応需件数率 (d/(d+f))	72.8%	82.5%	92.5%	85.2%
救急車応需人数率 (e/(e+g))	73.4%	82.8%	91.3%	85.2%

解説：平成 28 年度のさわうち病院は西和賀町の救急車の 48%を受入れ、目標とした 50%に手が届くレベルに増加した。不搬送は若干増加したが、救急車応需率は 85%と 8 割を超えている。地域の救急医療の完結性が上がったと評価される。

3) 西和賀消防管内の救急車搬送先と重症度

	死亡	重症	中等症	軽症	合計	カバー率
さわうち病院	4	17	62	61	144	47.8%
中部病院	0	12	32	14	58	19.3%
平鹿総合病院	0	9	18	15	42	14.0%
中央病院	0	7	8	6	21	7.0%
その他	0	8	21	7	36	12.0%
合計	4	53	141	103	301	
重症度の割合	1.3%	17.6%	46.8%	34.2%		

解説：さわうち病院は、中等度と軽症の患者さんを中心に救急車を受けており、重症者を受けてくれる基幹病院に感謝している。西和賀町では他の地域と比べ軽症者が少なく救急車の使用は適正と思われる。

3. 各部門の活動

1) 薬剤部門

	外来院内処方数	外来院外処方数	入院処方数
平成25年度	3,174	12,350	1,687
平成26年度	3,190	12,512	2,190
平成27年度	3,434	12,655	2,883
平成28年度	2,737	13,296	3,201

解説：入院、外来ともに患者数の伸びが抑えられているにも関わらず、外来院外処方件数と入院処方数は増加している。多数の疾患を持った患者の増加が示唆される。ポリファーマシイ対策も喫緊の課題である。

2) 放射線部門

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
CR	2,201	2,518	3,009	2,872
CT	372	464	834	828
骨密度	691	667	738	667
歯科	368	414	487	418
透視	51	54	53	43
ポータブル	131	161	124	24
MRI				163
合計	3,814	4,278	5,245	5,015

解説：入院、外来ともに患者数の伸びが抑えられていることを反映して、件数は減少した。

MRIの実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
頭部	9	10	9	2	7	6	3	3	7	6	2	10	74
腰椎	7	5	9	4	16	6	5	1	2	1	3	2	61
その他	1	1	3	3	1	4	2	5	3	1	0	4	28
合計	17	16	21	9	24	16	10	9	12	8	5	16	163

解説：平成28年度から開始したMRIは順調に稼働している。内容として、頭部と脊椎が多くを占めている。

3) 検査部門

	検体数	肺機能	心電図	超音波
平成25年度	7,470	360	1,021	351
平成26年度	9,666	321	1,065	378
平成27年度	10,946	353	1,353	603
平成28年度	10,415	93	1,250	598

解説:入院数の伸び止りの影響で検体数等はプラトー状態になっている。肺機能検査の減少は、人間ドックの検査項目の見直しにより、肺機能検査を毎年から5年毎に変更したことによる。また、技師数が減ったが、全体的には検査数、特に医師の負担軽減に大きく寄与している超音波検査数は維持されている。

4) リハビリテーション部門

	入院	外来	訪問	通所	合計
平成25年度	1,144	2,840	745		4,729
平成26年度	1,368	2,874	638		4,880
平成27年度	2,409	2,560	785	858	6,612
平成28年度	2,905	1,455	666	1,000	6,026

解説:平成28年度は、リハビリテーション全体の施行件数は減少したが、入院患者の施行が増えたことは、病院としては望ましい傾向と思われる。一方で、介護予防や要介護患者の日常活動度維持も重要であり、医療と介護の両者をバランス良く施行して行くことが、当院のミッションと考えられる。

退院前リハビリ訪問指導

	件数
平成26年度	8件
平成27年度	15件
平成28年度	18件

解説:入院患者の在宅移行を安全で不安なく行なうためには、退院前リハビリ訪問指導は必須であり、今後とも積極的に取り組んで欲しい。

5) 栄養管理部門

給食、特別加算食、透析外来食、ドック食の推移

	入院給食延食数	特別加算食	率(%)	透析外来食数	ドック食数
平成25年度	9,834	2,059	20.9%	1,432	338
平成26年度	15,903	1,680	10.6%	1,612	310
平成27年度	26,291	6,393	24.3%	1,898	331
平成28年度	26,164	6,433	24.6%	2,031	290

解説:入院患者数、透析患者数の増加に伴い給食数、透析外来食数は増加した。特別加算食の増加に期待したい。

栄養指導件数

	外来・入院	ドック
平成25年度	84	338
平成26年度	51	310
平成27年度	53	326
平成28年度	79	290

解説：外来・入院の栄養指導件数の増加が課題である。

摂食機能療法

	算定回数
平成26年度	494
平成27年度	362
平成28年度	611

解説：高齢者が多く摂食嚥下機能障害患者が多いため、NST 活動の一環として、摂食機能療法には力を入れている。

6) 透析

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
延透析患者数	1,633	1,951	2,129	2,334	2,746	2,919
延水質管理数	1,633	1,951	2,129	2,334	2,746	2,919
患者数（年度末）	12	14	14	16	19	19
新規導入	3	3	1	5	3	2
離脱	0	0	0	1	0	0
死亡	0	1	1	1	0	2
転院	1	0	0	0	1	0
延人工呼吸患者	1	1	1	2	3	2

解説：透析患者は増加している。腎不全患者の透析導入回避は喫緊の課題である。

7) 歯科

歯科医の保健活動

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
学校医・保育所医活動	14.5	13.0	15.0	15.8
幼児・就学時健診活動	10.0	11.5	11.5	9.8
人間ドック健診活動	37.0	34.0	37.5	34.2
歯科保健講話	1.0	4.5	3.5	4.0
学校保健会活動	12.0	14.0	15.0	13.3
障害者施設健診活動	0.0	0.0	4.5	0.0
計（時間）	74.5	77.0	87.0	76.9

解説：多方面にわたり、歯科の保健活動は精力的に行なわれている。

歯科衛生士の保健活動

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
実施延人数	2,145 人	1,939 人	1,871 人	2,063 人
衛生士延人数	240 人	202 人	207 人	217 人
所要時間	156時間10分	148時間10分	146時間40分	145時間25分

解説：歯科衛生士は、西和賀町の歯科保健活動に積極的に関わっている。

歯科技工士の活動

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
義歯（新義歯作成、修理、リベース）	1,337	1,286	1,374	1,529
インレー、クラウン、ブリッジ、硬質レジン前装冠	357	377	246	286
自費治療（矯正、金属床、ハイブリッドなど）	0	7	23	12
*歯科技工加算	342	329	335	289

解説：平成 28 年度はスタッフが減ったのにも関わらず、例年通りの活動を行っていた。

4. 医療の質の検証

1) 褥瘡発生率

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
院内	9	7	6	8
持込み：在宅	12	14	9	13
持込み：施設	6	6	6	7
持込み：他院	3	3	1	3
合計	21	23	16	23

d2 以深の発生率

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
d2 以上院内発生数	5	5	5
入院延患者数	5,369	8,772	8,706
発生率	0.09%	0.06%	0.06%

参考

施設・組織	年	分子	分母	発生率
聖路加国際病院	2014 年	175	182,935	0.10%
日本病院会	2012 年	—	—	0.11%

解説：院内発生褥瘡件数は横ばいであった。入院患者数を考慮した発生率は増加傾向になく、聖路加国際病院や日本病院会の集計結果に比べて良好であった。

2) 転倒転落

	入院 延患者数	転倒・ 転落数	率(%)	損傷 発生数	率(%)	重度損傷 発生数	率(%)
平成25年度	4,574	9	1.97	3	0.66	0	0.00
平成26年度	6,106	12	1.97	6	0.98	0	0.00
平成27年度	9,538	20	2.10	8	0.84	2	0.21
平成28年度	9,498	19	2.00	6	0.63	0	0.00
合計	29,716	60	2.02	23	0.77	2	0.07

参考

		入院 延患者数	転倒・ 転落数	率(%)	損傷 発生数	率(%)	重度損傷 発生数	率(%)
聖路加 国際病院	H26年度	179,265	278	1.55	30	0.17	8	0.04
日本 病院会	H25年度	—	—	2.57	—	0.71	—	0.05

解説：高齢の入院患者が多い中、転倒転落の発生率はほぼ全国集計と遜色ない。損傷の発生、特に重症の損傷発生の回避が重要である。

3) MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の検出状況

	新規院内発生	持込み	継続	外来	総計	MSSA*
平成24年度	1	1	2	1	5	
平成25年度	2	4	7	0	13	
平成26年度	2	1	6	0	9	
平成27年度	5	3	5	1	14	37
平成28年度	2	3	6	0	11	20

*；メチシリン感受性黄色ブドウ球菌

解説：耐性菌対策は、職員の手洗いの遵守や抗菌薬の適正使用を強く関連している。さわうち病院のMRSAの院内新規検出は数例で推移しており、耐性菌管理は適正と考えられる。

4) 待時間調査

	調査人数	平均待時間		予約患者対象
		来院～呼ばれた時間	予約時間～呼ばれた時間	予約時間枠内の比率
平成26年度	263人	104分		47.3%
平成27年度	288人	69.3分	33.6分	50.8%
平成28年度	465人	70.6分	23.4分	65.7%

解説：待時間は順調に減っており、予約枠時間内に診察を受ける患者数も増加している。

5) 職員数

	常勤	臨時	小計1	包括・健福	小計2	委託	総計
平成26年度	46	14	60	3	63	11	74
平成27年度	49	19	68	4	72	15	87
平成28年度	50	24	74	2	76	15	91
平成29年度	46	24	70	3	73	15	88

解説：常勤職員数の増加は、応募してくれる方が少なく困難であり、臨時職員の採用と、チーム医療の充実で対応している。

5. 委員会活動

1) NST（栄養サポートチーム）活動

入院時スクリーニング

	平成 27 年度	平成 28 年度
入院患者数（人）（a）	425	418
スクリーニング実施数（人）（b）	375	371
スクリーニング実施率（%）（b/a）	88.2%	88.8%
NST 対象一次リストアップ数（人）（c）	194	174
NST 対象一次リストアップ率（%）（c/b）	51.7%	46.9%
NST 対象最終リストアップ数（人）（d）	100	56
NST 対象最終リストアップ率（%）（d/b）	26.7%	15.1%
入院後 2 週間以内のカンファ実施数（人）（e）	34	34
入院後 2 週間以内のカンファ実施率（%）（e/d）	34.0%	60.7%

解説：NST の入院時スクリーニングは積極的に施行され、約半数が低栄養として拾い上げられ、最終的には医師の判断で 20%前後が対象者としてリストアップされる。スクリーニングでリストアップされた症例に関する入院後 2 週間以内のカンファ実施率は、平成 28 年度は大きく上昇した。

病棟看護師と歯科衛生士の口腔内スクリーニング

	平成 27 年度	平成 28 年度
実施回数（回）	51	52
入院患者数（人）（a）	425	418
対象患者数（人）（b）	258	223
口腔回診実施数（人）（c）	237	211
対対象患者口腔回診実施率（%）（c/b）	91.9%	95.2%
対全入院患者口腔回診実施率（%）（c/a）	55.8%	53.3%
歯科医師診察必要数（人）（d）	64	61
歯科医師診察実施数（人）（e）	55	49
歯科医師診察実施率（%）（e/d）	85.9%	80.3%
対対象患者歯科医師診察実施率（%）（e/b）	21.3%	22.0%
対全入院患者歯科医師診察実施率（%）（e/a）	12.9%	11.7%

解説：病棟看護師と歯科衛生士が入院患者の口腔内スクリーニングすることで、早期に口腔内環境・機能に関して治療を開始することが可能となる。

病棟看護師と歯科衛生士のスクリーニング後の歯科医の介入内容

	平成 27 年度		平成 28 年度	
義歯関連	30	54.5%	31	63.3%
抜歯	5	9.1%	3	6.1%
歯周病関連	2	3.6%	1	2.0%
その他	6	10.9%	4	8.2%
診査のみ	12	21.8%	10	20.4%

解説：口腔内環境・機能に関するスクリーニング後の歯科医の介入の内訳では義歯関連が圧倒的に多い。

入院時のアルブミン値

	測定数	3.5g/dL 以下		3.0g/dL 以下	
平成 26 年度	127	76	59.8%	44	34.6%
平成 27 年度	258	164	63.6%	100	38.8%
平成 28 年度	251	157	62.5%	88	35.1%

解説：入院患者のアルブミン値の評価では、6割が低栄養、3割が中等後以上の低栄養であり、地域全体で、この割合を低下させることが需要である。

血清プレアルブミン値と亜鉛値の測定件数

	平成 27 年度	平成 28 年度
プレアルブミン	304	190
亜鉛	324	201

解説：平成 28 年度は測定件数が減少しており、反省させられる。

5. 教育関係

1) 研修、実習受け入れ

医科、歯科、リハビリテーション部門

	内容	平成26年度	平成27年度	平成28年度
医科	中部病院研修医 地域医療研修	5名	5名	6名
	1年次学生 医療体験実習	4名	4名	4名
	3年次学生 地域医療研修	2名	2名	2名
歯科	研修医 地域医療研修	4名	7名	4名
	5年次学生 地域医療研修	4名	4名	4名
リハビリテ- ション部門	理学療法科学生 病院実習	2名	3名	3名

看護科

年 度	延日数	内 容	延人数	延時間	担当スタ ッフ延数	受 入 施設数
平成25年	9日間	看護体験・職場訪 問・地域連携	19名	115時間	42名	8施設
平成26年	26日間	看護体験・職場訪 問・地域連携	60名	257.5時間	77名	9施設
平成27年	28日間	看護体験・職場体 験・ボランティア	70名	429時間	84名	9施設
平成28年	26日間	看護体験・職場体 験・訪問診療・救 急救命士実習	57名	285時間	102名	10施設

解説：研修生や実習生の受け入れは活発になされている。

5) 研修会の参加状況

感染対策研修

		対象者*	集合研修 参加者	参加率 (%)	全参加率 **	備考
平成 27年度	1回目	75	48	64%	100%	資料配布
	2回目	76	60	79%	100%	資料配布(アンケート実施)
平成 28年度	1回目	82	61	74%	100%	資料配布(アンケート実施)
	2回目	77	61	79%	100%	ビデオ研修と手洗い実習

*：職員＋受付委託

**：追加研修を含めた参加率

解説：感染対策の研修会は全員参加が原則で、スケールメリットを生かし集合研修では高い参加率になっている。勤務等で参加できない職員には資料を配付するだけでなくビデオ研修やアンケートを実施して補足の研修の内容充実にかを入れている。

KYT(危険予知トレーニング)研修参加

	1回目			2回目		
	対象者	参加者	参加率	対象者	参加者	参加率
平成26年度	73	55	75%			
平成27年度	77			82	61	74%
平成28年度	81	66*	81%			

*：ビデオ研修を含む

解説：医療安全研修会は全員参加が原則であり、参加型のKYTに関しては、集合研修としては高い参加率となっている。平成28年度からは、ビデオ研修を導入し100%の参加を目指している。

6. 福利厚生関係

平成 28 年度から衛生委員会を月 1 回定期的に開催した。西和賀町の衛生委員会の運営にもさわうち病院として積極的に参加している。

1) 平成 28 年度夏季休暇取得率

	人数	付与日数 (日)	平均取得日 数(日)	取得率(%)
医師	3	4	2.3	58.3
医療技術職	13	4	3.5	88.5
看護師	29	4	4.0	100.0
事務員等	5	4	3.4	85.0
臨時職員	18	3	2.9	96.3

解説：医師を除き、夏季休暇の取得率はほぼ適正を考えられる。引き続き 100%の取得率を目指す。

2) 平成 28 年度年次休暇取得日数

常勤(年間 20 日)				臨時職員 (年間 12 日)
医師	医療技術職	看護師	事務職員	
4.7 日	7.1 日	7.0 日	8.1 日	7.0

解説：医師を除き 7~8 日の取得日数であり、増加を目指したい。